

JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

info@jhu-wing.main.jp

<https://jhu-wing.main.jp/>



呼びかけ：JAL 不当解雇撤回争議団、埼玉うたごえ協議会
協賛：埼玉県平和運動センター、埼玉県労働組合連合会

4月3日、さいたま芸術劇場にて、JAL 争議支援集会「勝利へのトランジットコンサート」が昼と夜の2公演行われ、延べ700人が参加しました。「トランジット」はその名の通り、「勝利」という目的地をめざして給油などをする経由地を意味します。昨年4月25日に北区「北とぴあ」で開催されたトランジットコンサート集会を出発し、今回の埼玉が初めての経由地です。合唱構成劇を取り入れた1時間40分の旅は大いに盛り上がり、勝利への展望を実感することができました。次のトランジット「名古屋」の地を経由して、再び目的地「勝利」に向かって飛行します。

第一部 合唱と朗読による構成劇

第1部「合唱と朗読による構成劇」のオープニングは、保育で働く皆さんのダンスと共に「快適な空の旅を」を披露。そして、この日の為に結成されたスクラム合唱団の皆さんが、JAL 争議団合唱団フェニックスと共に、9曲を歌って下さいました。



経営破綻から不当解雇に至るまでの経緯、その後の闘いと現状を構成劇と合唱でつづりました。合唱団フェニックスは闘いへの思いを込めて4曲を歌いました。演奏中、舞台の後方のスクリーンには、歌詞に合わせた映像が次々と映し出されました。



～振りむけば、そこにみんながいて、
いつでもこの輪の中で励まされてきた～♪



21年12月に細井砂織さん、25年9月に長澤利一さん、そして11月には石賀多鶴子さんが亡くなり、JAL 争議団は3名の仲間を失いました。遺影と共に舞台に立ち、志半ばでなくなった3人に一日も早く勝利を報告することを誓いました。



舞台の下手側では、うたごえの皆さんが、ピアノ、ギター、アコーディオン、鍵盤ハーモニカの伴奏でコンサートを支えて下さいました。



～客席からは「え～!」「なんで」「そうだそうだ」
などの怒りや共感の声がとんでいました～

第二部 JAL 本社大包围行動の舞台上に再現

弁護団が争議の現状と展望を報告

加藤桂子弁護士



今年1月15日、都労委はJALに対し救済命令を交付しました。これは、2010年の整理解雇時に「人員を減らしすぎたのではないか」という団体交渉でのJHUの質問に対し、会社が具体的根拠を示さず不誠実な対応を続けたことを不当労働行為と認定したものです。現在、中労委にて差別扱いの是正も求めて審理中ですが、完全勝利に向け全力を尽くします。

連帯の挨拶(昼の部)

埼玉県平和運動センター副議長 金子彰さん

80年代後半、国鉄分割民営化で、後に当時の中曽根総理大臣は国労を潰す為だったと発言。政治や資本が闘う労働組合を潰そうとする、運動を委縮させようとする。労働者の尊厳が簡単に踏みにじられる社会は許してはならない。この闘いは働く者一人一人の尊厳を取り戻す貴重な闘いだと認識している。精一杯取り組んでいく。



埼玉県労働組合連合会事務局長 穴戸出さん



労働組合は常に資本や国から攻撃をかけられ、潰されようとする。歌がなぜあるのか。長い闘いの中、苦しい、生活も不安、押しつぶされそうな時が沢山ある。そこを歌で連帯し激励し、闘いの勝利への展望を皆で確認する。歌にはこの力がある。勝利への離陸が始まった。私達の力で勝利に導いていくことを呼びかけたい。

埼玉県母親大会連絡会 事務局長 内田典子さん



不当解雇以来、物品販売でモノを買ったりして支援してきた。今日は当時買ったバッジをつけてきた。モノ言う労働者を切り捨てる JAL に対して怒りを覚える。許すわけには行かない。亡くなった石賀さんとは日本母親大会でいつも一緒だった。本当に悔しい。連帯して勝利に向けて頑張っていきたい。歌で全国の皆さんと繋がりながら無事に着陸したい。

埼玉県平和委員会 二橋元長さん

ハインリヒの法則がある。一つの事故の背景には 29 の小さな事故が、その背景には 300 のミスがある。ヒヤリやハットした時に対策を取っていれば大事故は防げる。そのためにはモノが言える環境、対等平等の人間関係、熟練経験者とのペアが必要。これを全部潰したのが JAL。皆さんが職場に帰ることを通じて平和、安全、未来を勝ち取ろう。一緒に頑張ろう。



連帯の挨拶(夜の部)

埼玉県労働組合連合会 議長 藤田省吾さん



ベテランの知識と技術は次世代に受け継がれる安全の礎。争議開始から長い年月が経ったが、争議団の闘いは日本の労働者の権利を守るための闘いであり私たちの問題。駅頭での宣伝や本社前での座り込み等、一步一步が必ずや勝利へと繋がっていると信じている。大空に戻るその日まで、共に声をあげ、共に歩むことを誓い合いたい。

JAL 争議団を支援する熊谷の会代表 河合好一さん



会社が招いた経営破綻で労働組合を弱体化するために強行した不当解雇。モノを言う労働者の解雇は安全に逆行する。争議を解決し、現場社員が誇りを持って働ける環境作りが必要。当たり前のことが言える会社にしなければならない。埼玉でも JAL 争議を応援し解決するまで共に頑張る。今年のメーデーでも JAL 争議を訴えていく。

新日本婦人の会埼玉県本部 会長 高田美恵子さん



今、国会では戦争反対、9 条改憲 NO！こんな働き方で良いのか。そういう女性、若い世代の思いがある。皆さんは空の安全を守るために厳しい訓練を受け、働く女性のパイオニアだった。働く女性の権利を蔑ろにして大晦日に解雇する企業の横暴は許されない。こうした事例は後を立たない。皆さんが諦めず闘う姿は私たちを励ましている。共に闘うことを表明する。

明治乳業争議団 遠藤力さん



私たちの闘いでは、会社は昭和 40 年代初めから大幅な人員削減をするために、会社の意のままになる労働組合に変えようと労働者の分断をはかってきた。大幅な賃金差別の実態が分かるよう、労働委員会には長いスパンで見えることを訴えてきた。今、労働委員会で話し合いで解決できるよう交渉している。JAL 争議の皆さんと共に頑張っていきましょう。

～国税局の分限免職と闘う原口朋弥さんと JAL の整理解雇の一年前に分限免職

され 17 年間闘っている全厚生（現 全労連）の松本弘毅さんも幟を立てて登壇されました！～

現役客室乗務員からの訴え

JHU 副委員長 渡辺佳子



イラン戦争でホルムズ海峡は事実上封鎖され、航空だけでなく市民への影響も危惧されている。戦争は武器を作り、運び、扱う労働と、それを黙認する世論で成り立つ以上、止める力も労働者と市民にある。人員数の隠蔽に加担した国の狙いは、民間航空の軍事利用に反対する労働者の排除。これを許せば航空が軍事に組み込まれてしまう。健全な労働組合は自由と民主主義の土台。航空安全と平和のため、不当解雇を撤回させましょう。

JHU から決意表明

JHU 委員長 山口宏弥



解雇されて“うたごえ”に出会い、共に歌いながら、励まし励まされてきた。私達の解雇は裁判中に元最高裁判事が JAL 社外取締役役に就任するなど行政だけでなく、司法も一体となって進められてきた。1月の「不当労働行為救済命令」は、「解雇有効」の判決の正当性を正面から問うもの。納得できる解決を目指し頑張っていく。

広島から駆けつけて下さった「国鉄広島ナッパーズ」の山上茂典さんが、山口委員長の詞に曲をつけて頂いた“平和な空をどこまでも（仮題）”が初披露されました。



閉会の挨拶

JHU 副委員長 小栗純子

闘いは大きな山場を迎えている。しかし、私達の闘いに対し、JAL は逃げ続け、解決を決定していない。真に安全なグローバル企業として発展していくために、JAL は違法行為を止め、世界基準でこの争議を解決すべきだ。全ての労働争議の解決、平和な世界、人権が大切にされる最終目的地を目指し、前を向いて頑張っていく。



**フィナーレは、会場の皆さんと
団結ガンバローと「頑張ろう」を大合唱**



このコンサート集会を開催するにあたり、ご尽力頂いた多くの関係者の皆さん、会場に足を運んで下さった皆様、カンパや支援物資にご協力下さったすべての皆様に感謝申し上げます。これからも勝利の朝を信じて前に進んで参ります。

～沢山の方から感想が寄せられました。ごく一部を紹介致します～

- ★ 圧巻だったのは労働団体、市民団体などがのぼり旗や横断幕をもって登壇し、連帯のメッセージを寄せたこと。争議支援への熱い連帯に包まれた瞬間だった。ファイナルは「ガンバロー」の全員合唱。働く者が大事にされてこそ、安全も平和も守られ、確かな未来が展望できる。素晴らしいステージだった。
- ★ 足を運んで良かった。快適で自分を奮い立たせてくれた 1 時間 40 分の旅でした。旅で終わらせたくない。社会と人々に伝えて行かなければ。私は合唱団と職場、家族へ。